

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502470		
法人名	医療法人社団 高台病院		
事業所名	グループホーム はしどい		
所在地	札幌市豊平区美園 3条8丁目4-5		
自己評価作成日	平成27年5月14日	評価結果市町村受理日	平成27年6月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502470-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 5 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々入居者の様子、変化、気づいたことなど、小さな事でも職員間で報告し合い、その都度検討し、環境作りや対応方法・介助方法の見直しを行なっており、その時の入居者様に合った個別な対応ができるよう努めている。
入居者様の楽しみの1つである食事は毎食手作りで提供し、メニューには旬の物や好みの物を取り入れており、行事や催し物は毎年新しい事を取り入れて企画・実施し、入居者様がホームでの生活に楽しみを持てるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【医療及び健康管理面の安心感】
運営母体が医療法人のため定期訪問診療や病状等の緊密な連携、職員看護師による見守りなど医療及び健康管理面で安心感があります。
【職員間及び家族との意思疎通と情報共有】
職員は、ミーティングや介護関連記録で利用者の状態を共有すると共に、家族にも毎月郵送のお便り等で情報提供に努めているため家族も安心しています。
【明るさと清潔感のあるホーム】
開設後11年を経たホームは、内部に明るくゆったりした共有空間があり、衛生や清掃徹底など職員のホーム維持管理努力によって清潔感を維持しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内に掲示してあり共有はできているが、日々の業務の中では意識が不足している。生きた理念になっていない。	理念を案内パンフレットに表示し、内部掲示や職員のネームカードに記載しています。また、理念に基づく年間目標（ホーム）、月間目標（ユニット）を作成して理念の共有に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩へ行った際挨拶したり、地域の行事へ参加や避難訓練や運営推進会議へ参加して頂く等して、少しずつ交流は増えている。	周辺に共同住宅が多く、町内会活動の少ない地域ですが、地域のお祭り見学、ホーム主催の夏祭りへの住民参加、子供御輿の立ち寄り、ボランティアとの連携など地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の人の理解や支援方法等を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、ホームでの取り組みや報告・話し合いを行い、毎回参加者に意見を聞き参考にさせて頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、町内会関係者や家族も参加して定期的に開催しています。会議は、認知症などをテーマに取り上げ、ホーム運営についての意見交換を行い、夏祭りなどのイベント内容や利用者へのサービスに反映させています。	運営推進会議の行政関係者を除く外部参加者が2名と少ないため、町内会関係者などメンバー増員の継続的努力と開催テーマによっては広範囲に参加者を呼びかけるなど開催方法の検討を望みます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で実施している集団実施指導に参加し情報を得ている。 書面でわからないことがあれば担当者の方へ直接聞いている。	ホーム運営に関する相談や情報交換を電話や市担当者を訪問して行っていますが、さらに、保護課職員の来訪時や管理者集団実施指導等で市職員から助言を頂くなど行政との協力関係築くようにしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修で身体拘束についての勉強を行ない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 安全のため夜勤者1人体制の時は時間を決め施錠を行なっている。	マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアの外部研修参加や内部勉強会で全職員が共有しています。また、勉強会では、職員がテーマを設定して事例発表を行い、ケアの実践に繋げています。玄関施錠は夜間帯のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で学ぶ機会を持ち、言葉かけ等にも注意を払い防止に努めている。また、不適切な対応があった場合には、管理者に報告する等してミーティング等で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には利用されている内部研修では、後見人の出来ること・出来ないことについても学んでいるが、理解不足の面もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に対して十分な時間を取り、ケアマネージャー立会いのもと、ホーム長が説明している。不安や疑問には都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族からの手紙、電話でのやり取りの際、意見要望等があれば反映させている。又、玄関には意見箱を設置している。	利用者の様子は家族来訪時や電話、担当職員が毎月お便りを郵送しています。また、季刊発行の「はしどい便り」でも様子を報告しています。家族の要望等は速やかに内部で検討してサービスに反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ミーティングや日々の業務中等、都度、意見提案等は聞いてもらっており、反映させている。	ホーム長及び管理者と職員は、日常業務や各種会議等を通して意見や要望を聞く機会があります。職員間の意思疎通も良好で、利用者毎の介護関連情報も共有してケアサービスに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	把握に努めてもらっており、職員側からの提案意見等も取り入れてもらっている。新人職員の定着が悪く、常に人手不足で余裕がない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の現地や、外部研修を受ける機会を確保して頂いている。 また、新人トレーニング表を用い、業務を新人スタッフがどの程度理解しているかを聞く時間を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修などで交流する機会はあるが、少ない情報は持ち帰り、サービスの質の向上に生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何でも話しやすいような雰囲気作りに努めている。本人が言えないような様子があれば、思いを汲み取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や手紙等で家族の思いや要望を聞き、不安等を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や意見、家族からの情報を元に見極めを行ない、それに沿って支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや個々の性格にも配慮しながら、一人一人にあった声かけや出来る事への支援を行っている。無理のない範囲で、お手伝いをお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はゆっくり過ごして頂くよう努めている。ホームでの情報や、家族からの情報や要望を共有しながら、協力してよい支援に繋がるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙やはしどい便り、電話での近況報告、行事への参加の声掛け等、関係継続の支援を行っている。	利用者の電話や手紙などによる連絡を手伝い、知人来訪の際は歓迎してゆっくり寛げるよう配慮しています。馴染みの美容院やお店などへの外出希望の時は、家族への連絡や状況に応じて職員が付き添い、昔馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを通しての交流の支援や、席の配置等にも配慮し、利用者同士関わり合いが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後はあまり関わりがないが、何かあれば連絡を下さるよう、ご家族に話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に話を聞いたり、意思疎通の困難な方にはその人自身になって考え、フロアミーティングや日々の申し送り等で検討している。	職員は、日常のケアサービス経験から利用者の思いや意向を概ね把握していますが、困難なときは家族からの情報、職員間の相談、介護記録から把握するよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取り等を元に、生活歴等を個人ファイルにまとめ、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックに実施、会話・声掛け等を通じて様子を見守り、変化ある場合は申し送り等で情報共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を元に、本人・家族・看護師等の意見を合わせて、それらを反映させるよう計画作成している。	利用者の担当職員が中心となってアセスメントやモニタリングを行い、4ヵ月毎にケアプランの定期見直しを検討しています。プラン見直しが必要な際は、家族や主治医にも相談して現状に即したプラン作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや各種記録、フロアミーティングでの情報共有等を介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿って、個別的なニーズに対応できるよう、色々なサービスを検討し取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りへの参加や公園の利用等、楽しむことができる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の高台病院より月二回の往診の他、週一回の訪問歯科、又、それぞれ個人が希望される病院があれば行って頂いている。	運営母体の医療機関による月2回の訪問診療と週一回歯科の訪問診療があり、職員の看護師も週3日間以上勤務して健康管理に従事しています。かかりつけ医受診は家族に依頼していますが、状況に応じて看護師が対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かい変化でも時間を問わず報告し、それに対応・指示をもらい支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が、病院の関係者と連絡・情報交換を行い、医療機関と協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の意向を考慮しながら、ホームでできる事を説明し、検討・支援に取り組んでいく。	入居時に利用者の重度化や終末期に対する方針を説明し、看取り介護の同意書を頂いています。ホーム方針を職員は共有しています。現在、看取りまでのケアサービス実施を明確に定めていませんが、今後の課題として検討中です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で看護師より指導を受け学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも避難訓練委参加して頂き、協力体制を築いているが、訓練はより実践的なものを行う必要がある。	ホームは夜間想定を含めた年2回の避難訓練を実施し、地域の方も参加しています。さらに、年1回の自主訓練、専門業者による年2回の設備点検、備蓄品の整備など災害対策に取り組んでいます。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時の声掛けやトイレの声掛け等、プライバシーに配慮して対応している。	日常のケアサービス時における声かけや介助の仕方に利用者の人格やプライバシーを損ねないように十分配慮しています。利用者の各種記録類も適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースに合わせてながら本人に確認して、決めてもらえることは決めてもらい、困難な場合は家族にも相談し、意見を頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来る限り本人のペースで過ごせるよう支援しているが、職員側の都合で合わせて頂いている部分もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に洋服を選んだり、難しい時は天候や好みに合わせ職員が支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた形状で提供しており、好みのメニューを誕生日に取り入れたり、手作りおやつと一緒に作って頂いたりしている。普段の食事の準備は一緒に出来てない。	献立は担当職員が利用者の嗜好や病状、季節行事を配慮して作成し、一部利用者は職員と共に食材を買いに出かけています。外出行事の際には外食も行うなど変化と楽しみのある食事の提供に取り組み、利用者も美味しい食事に喜んでいます。	献立は一般職員によるため、栄養バランスや摂取カロリーの確認を運営母体病院の栄養士が行うことを検討中ですので、定期的な点検の実施を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表を利用しながら看護師とも相談し、個々に合わせたバランス・摂取量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ケアチェック表を利用しながら、それぞれに合わせたトイレ誘導、排泄ケアを行なっている。 移動に車椅子を利用されている利用者には、訴えがあった時にはすぐに対応している。	自立排泄の困難な利用者についてはケアチェック表で排泄パターンを把握し、表情や動作も見守りながら声かけ誘導でトイレ排泄に努めています。下着類も利用者の状況を見極めながら適切なものを着用するよう配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と排便状況の情報を共有しながら、下剤調整や水分量の配慮、乳製品の摂取等調整して、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	月一回の温泉デーで入浴剤を使用して楽しんで頂けるようにしている。その方の体調に配慮した時間で入浴して頂いたりしている。希望に沿う事は難しい面もある。	入浴は、日中に利用者の希望時間に実施するよう努め、週2回以上の入浴を基本としています。さらに、毎月1回、入浴剤を利用して温泉気分を味わうなど楽しく入浴出来るよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせた入浴の時間が取れる様配慮している。夜間が不安な方には、夜勤者がいる事を伝え安心して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用等の把握は出来ていないが、看護師からの情報や処方箋で確認できるようになっている。 服薬時は二人で確認し、安全に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少数だがご自分からお手伝いをして下さる方もいる。 楽しみ事や気分転換になるような行事や外出の支援を今後も増やしていきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりその日の希望に沿った外出は出来ていない事が多いが、天気の良い日は散歩の声をかけを個々にするようにしている。また定期的にドライブやランチで外出対応して下さる家族もいる。	天候状態に合わせて周辺散歩や買い物に出かけています。また、外出行事で花見や動物園などを楽しんでいます。また、利用者の希望で随時ドライブに出かけたり、家族との外出もするなど出来るだけ屋外に出る機会を持つよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所管理になっているが、必要時は使えるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は自由に出来るようになっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの配置もその時々状況に合わせた配置にしたり、季節感が感じられるような飾りを飾ったりし、明るい空間作りをしている。温度や湿度にも注意している。	開設後11年を経過していますが、内部全体に清掃が行き届き清潔感を維持しています。居間兼食堂の共有空間は間口部の広い大きな窓で明るく、桜など四季の景観も楽しめ、親しみと季節感を感じるこの場所で利用者は寛いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やリビングのソファ、廊下のソファ等、自由に過ごせるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や、馴染みの物を置いて頂き、居心地良く過ごせるようにしている。	居室内には整理ダンスとロッカーが設置されて持ち物の整理に役立っています。利用者は、壁面に写真や絵を飾り、テレビや調度品などを好みに合わせて配置して、のんびりと暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに名前を大きく貼ったり、トイレのサインを貼ったりして、分かりやすく安全な空間作りに努めている。		